

そらこめ通信

No.79 2017年2月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

昨年は、雪の降り始めが早く、加えて11月には珍しいほどの大雪、さらに12月の低温と相まって、師走の段階では(今年は)とても雪が多いシーズンだと覚悟しておりました。しかし、1月に入ると雪が降らず(寒さは相変わらずですが)、2月になって「あらら・・・？」という感じになってきております。弊社の圃場がある沼田町のホームページに、毎年の降雪量や積雪深のデータが計測月で前年対比できるよう掲載されているのですが、最新のデータ(2017年2月1日)によれば、降雪量、積雪深ともに過去3年間で最低となっています。先述しましたが、寒さの方は相変わらずです。こちらは気象庁のデータですが、比較的雪が降らなかった1月における石狩沼田の気温を前年と比較すると、最低気温が20℃を下回った日が2016年1月、2017年1月共に5日間でしたが、10℃を下回った日(20℃を下回った日を含む)は2016年1月が15日間だったのに対し、2017年1月では24日間もありました。寒いから雪が降らないのか、雪が降らないから寒いのか・・・。もしかしたら、今年は気温が緩む頃に大雪が来るのかも知れませんね。2月後半から3月は要注意です。

今年も、もみ殻を使った燻炭作りが始まりました。出来上がった燻炭は、春に種をまく際に、苗床の土に混ぜる形で、土壌改良材として使います。燻炭には植物が成長する上で欠かすことができないケイ素やミネラルが多く含まれています。また、土に混ぜ込むことで、土の中に適度な空隙ができるため、良性細菌の保有に適した環境が生まれるのだそうです。これらは全て病気に負けない健康な苗を作るため。ハウスでの育苗の際に健康な苗を育てることはとても重要なことです。



解体業者による離農した農家の家屋の解体(2016年11月19日～24日)



ハウス周辺の除雪作業(2016年12月24日)



ハウス内の除雪作業(1月15日)



本社の精米作業場のようす(1月26日)



本社の精米プラント(1月26日)



この日は「ゆきさやか」の精米からスタートしました(1月26日)



精米されたコメを計量機から下ろす



シーラーという機械で袋を密封する作業



作業を担当していたのは拓哉さんです



もみ殻で燻炭を作る作業(1月31日)



蓋で密閉したあとで上部の穴から着火



燻炭小屋から立ち上る煙(1月31日)



昼夜かけて、もみ殻燻炭が完成(2月1日)



ポンプ小屋の屋根雪下ろし(2月2日)



除雪機のオーガの修理作業(2月2日)

本文にも書きましたが、今年も1月末からもみ殻を使った燻炭作りを始めております。もみ殻の燻炭は古くから土壌改良剤としての効果が言われてきましたが、手間がかかることや、籾のまま出荷されることが多くなったことで、もみ殻自体が手元にならないこともあり、今では作る人は稀になりました。燻炭を苗床の土に混ぜることで丈夫な苗が育つ。丈夫な苗は圃場に移植した後で必ず生きてきます。これって、子育てと同じ？ 幼児期の環境が大事ってことか？ うーん、難しい問題ですね(笑)

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
 ブログ「生産日誌」更新中です